臺灣日日新報　第一万五千百四十三號　外　（一）
（第二版）（明治卅二年五月九日第二種郵便物認可）　昭和十七年五月四日（月曜日）

臺灣新報

本日四頁

英印軍、重慶軍間に樞軸東亞英勢力全く敗退の意義

マンダレー攻略の一段階

敗戰英軍最大の打撃

ビルマ公路門戸閉鎖

印度の側背を衝く

言語に絶す英軍焦躁

コタバト平地を制壓

ピキットを完全占領

要衝ガナンを占領

新しい政治力結集

具體的結實を期待

首相、翼協會長と會見後　湯澤內相言明

南方資源を獲得し臺灣の重工業振興

歸任の長谷川總督談

輝く功一級金鵄勳章

長谷川總督三日歸任

聯合軍、全ビルマ喪失

米英側極度の悲觀論

舊黃河畔一齊に總攻撃の火蓋切る

豐穰の大平原に治安確立

ホーン島、ツラギ爆撃

新人四割分强

全印國民會議派の戰時決議案

アテネ空襲の英爆撃隊退散

ソ聯外相近く訪英

米國に於けるユダヤ人問題

七性ホルモン錠
男女各種の性衰弱に
東邦新田式

米英艦隊撃滅　増補版
大本營海軍報道部課長　海軍大佐　平出英夫
B6判　定價八十錢　送料八錢
大増補出來
寒光太郎著　北洋の土官　一・六〇　〒・二五
最新刊
柴田賢一著　八幡船　一・八〇　〒・二五
最新刊
米田祐太郎著　海商隊　一・六〇　〒・二五
最新刊
戰線文庫　五月新刊
興亞日本社

校長　高田豐樹
無線通信士　無線技術者養成　夜間
東京無線技術學校
學則要四錢　東京市神田區萬世橋際
無線　獨學で　無線通信士　技術者となれる
學校

鹿島健著　米國に於けるユダヤ人問題
B6判　二〇八頁　價一・二〇　〒・〇八
最新刊
アメリカを識ることはアメリカに於けるユダヤ人を識ることである。本書は的確なる資料によりアメリカに於けるユダヤ勢力の全貌を明かにした見逃し難き一書。
大泉行雄著　現代商業の基本問題　價一・〇〇　〒・〇八
同著　獨逸及獨逸人の問題　價一・二〇　〒・一二
資谷源藏著　計畫貿易政策　價一・八〇　〒・〇八
古屋美貞著　興亞貿易論　價三・二〇　〒・五〇
一井修著　東亞國土計畫　價二・〇〇　〒・五〇
延衆數之助著　世界資源論　價二・一〇　〒・五〇
新企業學　井上龜藏著　價二・二〇　〒・五〇
カルテル論　國弘員人著　價二・二〇　〒・五〇
經營比較論（增訂）　古川榮一著　價二・〇〇　〒・五〇
經濟論抄本（英文）　高島善哉著　價二・二〇　〒・一二
戰爭と人口問題　郡菊之助著　價二・二〇　〒・〇八
最近經濟問題解說（十六年版）　市川健兒著　價一・九〇　〒・〇八
同文館

不愉快に
暮したのも今は夢
小堀千子
ヒモルボン
女性用
コセトン錠
月名病院婦人科使用

佛印主要物資の蒐荷配給機構

華僑對策と本島人進出に期待

日本は佛印ニヨリ月の間に敵の軍事基地を撲滅し、日本國民が安心して資源の開發に當れる樣にすべきを痛感し、今次戰爭の目的があると共に

八重櫻に偲ぶ〝祖國〟

ジャスミンの床しい香に疲れも霧散
われら將兵の意氣軒昂

ビルマ便り

【ビルマ○○部隊にて二日發同盟】敵彈と風土病を征服しビルマの奥地に突進する將兵からわれらが將兵慰問を託けてゐる、以下は戰線にあつて敵彈に怯りを知らぬ○○部隊の勇士たちの現地ビルマ便りである

ビルマの山野に飽ひを始めてから四箇月

戀しい故國の便り

生佛に仕へる

使ひ切れない

敵のガソリンが手に入つた

敵に砲口を向けたり

するのは痛快

敵彈では死ぬ時は死ぬ

敵が來ても

敵に降參

敵の砲彈と

ピルマ人の日本觀

ピルマ人の嫌れ者

暴虐の重慶軍

逃げる氣持で一ぱい

ビルマ戰線捕虜徐少尉の告白

おいらはビルマの釜の中

酷熱と闘ひ歌と共に征く將兵

ビルマ人の釜の中

前回に比し都市の棄權率低下

この一票に翼贊の熱意

飛沫を擧げて眞摯敢闘

建功神社奉納水上競技大會

榮冠北工へ

中等野球終る

北一中、高校優勝

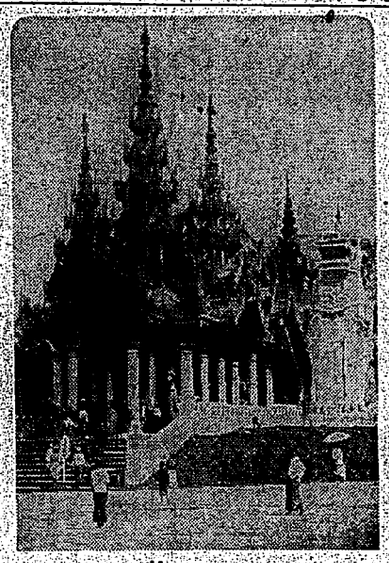
ホッケー競技

滿洲國皇帝陛下下賜の

溫室の草木すくすくと生長

ダゴパ物名のマルピ

陸の荒敵 驚撃無機全 砕爆を地基行飛 還歸事無機全 砕爆を地基行飛敵 驚荒の陸
（てに線戰○○）兵電無く叩て上機をイキの



慘憺想像に絶す

劫火夜空を焦し怒號の聲街に充満

灰燼の街マンダレー

【マンダレー二日發同盟】戰禍に燒拂はれた緬甸第二の都會マンダレーは、今や全く灰燼に歸した。市の中心部は殆んど全部が焼け落ち、僅かに煉瓦造りの建物が殘つてゐるのみである。マンダレーは緬甸王朝の首都として榮えた古い都會で、人口は十萬を數へ、緬甸第二の大都市であつた。

【マンダレー二日發同盟】戰禍に燒拂はれた緬甸第二の都會マンダレーは、今や全く灰燼に歸した。市の中心部は殆んど全部が焼け落ち、僅かに煉瓦造りの建物が殘つてゐるのみである。マンダレーは緬甸王朝の首都として榮えた古い都會で、人口は十萬を數へ、緬甸第二の大都市であつた。

マンダレーに入城した英軍將兵は、この慘憺たる光景を見て、一樣に驚きの聲を發した。

マンダレーの街は、ビルマ人の住む地區と、英國人やインド人の住む地區とに分れてゐるが、ビルマ人の住む地區は、殆んど全部が灰燼に歸してゐる